

府立和泉支援学校



テーマ: 自立活動について知る

概要

和泉支援学校では、今年度から3カ年計画でカリキュラム・マネジメントの充実に向けて取組みをすすめています。1年めは自立活動の時間における指導をテーマに研修を実施しました。第1回校内全体研修は「自立活動について知る」と題し、自立活動の教育課程上の位置づけや、自立活動をより良いものにするための工夫について研修しました。また、子どもの様子を例にしたワークシートを用い、自立活動の目標設定を考えるワークを行いました。その後、3回の研修会や教材教具展示会、公開授業研究協議を通して自立活動についての知見を深めることができました。

実施スケジュール

Research

6月16日(月) 研修内容およびスケジュールの検討

Vision

6月25日(水) 第1回校内全体研修
「自立活動について知る」

Plan

7月 校内研修に向けた準備

Do

7月~12月 校内研修計3回

Check & Act

1月7日(水) 研修成果のまとめ、2年め以降の取組みについて打合せ

全体会

6月25日(水) 第1回校内全体研修会について

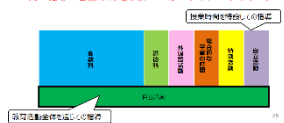
支援教育推進室指導主事より(以下資料より抜粋)

「自立活動について知る」

自立活動について、基本的な考え方を共有するため、指導主事による研修を実施しました。自立活動は、障がいによる学習や生活上の困難を、子どもたちが主体的に改善・克服し自立をめざすための教育活動です。本研修では、特定の指導時間だけでなく、各教科や日常生活のあらゆる場面で「6区分27項目」の視点に基づいた指導を行う重要性を共有しました。教員が個別の指導計画を基に連携し、子どもの「自ら考え、選び、行動する力」を育むための意図的な支援の在り方を深めました。

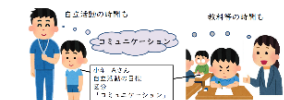
○自立活動の教育課程上の位置づけ

- ・自立活動は、支援学校の教育課程に特別に設けられた指導領域
- ・自立活動は、授業時間を確保して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科においても、自立活動の指導と密接な関連を築いて行わなければならない。



○自立活動の実践事例

そのためには…



子どもに関わる教員が、児童生徒の自立活動の目標を念頭に置き、授業を展開することが大切

校内研修

校内研修について

大学の先生をお招きし、自立活動についての校内研修を7月~12月に計3回実施しました。1回めは、7月25日(金)に泉北ブロックの公開研修において「自立活動について」と題して、自立活動と各教科等との関連を意識した授業づくりなど幅広く講義していただいた後、自立活動の目標設定について演習を行いました。2回めは、9月8日(月)に「SSTの基礎から学校におけるSST手法の進め方」と題して、SSTの手法を学校で活かすための基本的な流れを学びました。その後、3度の学校訪問を受け、高等部2年生での実践の成果を報告しました。3回めは、12月12日(金)に「自立活動の事例検討会」として、これまで3回学校訪問で見ていただいた和泉支援学校の子どもの実態やアドバイスをいただいた関わり方、子どもの変容について、全教職員で共有しました。

成果

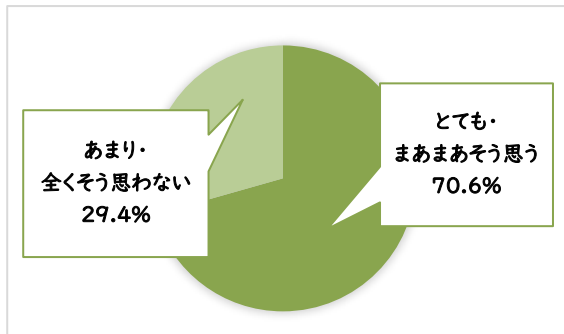
自立活動の時間における指導を、より児童・生徒の実態に合ったものにしていくために、自立活動の教育課程上の位置づけを校内全体で確認できました。

「自立活動について知る」と題した校内全体研修会をはじめに行ったことにより、以降の校内研修を系統立てて実施できました。

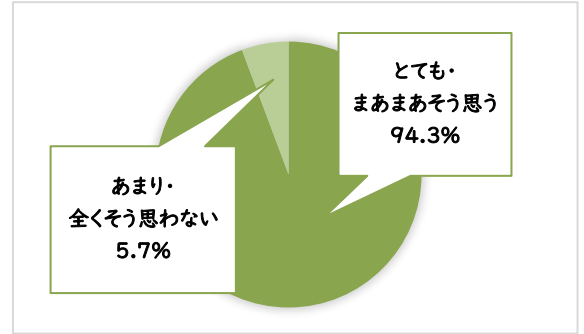
大阪府教育センターが実施したアンケートの「自立活動についての理解」に関する質問において、研修実施前と比較し、「よく理解している・理解できた」、「まあまあ理解している・まあまあ理解できた」の指標が+23.7%の伸びになりました。

アンケート
結果

① 実施前



② 実施後



(第1回全体研修後アンケートより)

- ・自立活動と合理的配慮の違いについて明確に分かりました。
- ・子どもたちの主体性引き出すための手立てや支援を考えていく上で大事な視点を確認できました。
- ・自立活動の教育課程上の位置付けや目標を再確認できました。
- ・多様な視点で子どもの支援を考えることが大切であることを再確認できました。

(事後アンケートより)

- ・子どもたちへの関わりや自立活動の目標設定などを再確認できる良い機会となりました。
- ・3カ年計画の導入として大変勉強になりました。教育センターの指導主事の方からの話は分かりやすかったので、機会があったらまた利用したいと思います。